

## 怨みや憎しみのない世界を

私は日本の仏教の聖地、京都比叡山から参りました、第二五七世天台座主森川宏映と申します。今から三十年前、教皇ヨハネ・パウロ二世聖下の提唱で始められた、世界の宗教者による平和の祈りの集いは、毎年ヨーロッパ各地を巡礼し、本日の出発の地アッシジに戻ってきました。そしてここに世界の宗教指導者はじめ会場の皆様と共に、助けを必要としている人々のために祈ることができましたことは、私の九十一年の生涯で最も喜びとすることであります。

さて、力による平和は力によって覆されることを歴史が証明しています。そして祈りと対話こそ平和への回り道でなく、最も近道であることを知るべきであります。ところが今世界は宥和や協調から対話を鎖し、孤立や力を求める動きがあることを見過ごすことができません。このような傾向は自己中心的な怒りや憎悪、さらに怨みを生じかねません。

釈尊は「怨みに対し怨で報ゆれば怨み息まず。怨みを捨ててこそ怨み息む」と諭しています。比叡山を開いた最澄上人は「怨みに対しては徳をもって報えよ」と説き、アッシジの聖者フランシスコは「憎しみのあるところに愛を」と説いています。

私達宗教者は、怨みのあるところには徳を、憎しみのあるところに愛がある世界を創るべく、共に祈り、手を携えて、一層努力していかねばなりません。その意味でもこの場にフランシスコ教皇聖下が御臨席されていることは、私達をどんなに勇気づけて下さることでしょう。

明年はアッシジ精神を引継ぎ、アジア日本の比叡山で毎年開催されている「世界宗教者平和の祈りの集い」が三十周年を迎えます。人類の和合をめざし絶ゆることなく続けられる東西の諸宗教の祈りは、必ずや神仏に届くことを切に願うものであります。有難うございました。

2016年9月20日

日本国天台宗

第二五七世天台座主 森川 宏映